

# 時代に即応し、読書と学びの機会を保障する学校図書館運営を目指して

この資料は、公益社団法人日本図書館協会発行「図書館雑誌」  
2021年12月号の原稿に加筆・修正したものである。

## 1 これまでの取組

### (1) 三重県立津高等学校について

本校は1880(明治13)年に創立した三重県津中学校を前身としており、「目指す姿」として次のような「育みたい児童生徒像」を掲げている。

- 1 日常において「自主・自律」を実践できる、知・徳・体の調和のとれた生徒
- 2 主体的に学び、自らを律し、粘り強く努力することで、生涯にわたって自己実現を図るとともに、心豊かで、高い志を抱いて社会に貢献できる生徒

この「自主・自律」「高い志」は本校の活動全般にわたる礎になっている。

また、スーパーサイエンスハイスクール(以下、「SSH」と言う。)の指定三期目となっているのが近年の特色である。文系理系問わず、全学年・全クラスで「SSH探究活動」が行われ、1学年では「リベラルアーツ」について学ぶ。

### (2) 学校の方針に沿った取組

本校図書館は本校のこれらの特徴を踏まえ、以下のような方針と目標を「学校マネジメントシート」に明記している。

「自主・自律」の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーを育成するため、読書生活を支える場、文化的教養を育てる場、自主学習の場、交流の場として、幅広い知識と豊かな情操を養う資料を収集整備して、活用の充実に努めます。また、文化活動を通じて文化的教養を育成します。

令和3年度の目標：貸出6,500冊以上、年度内に一度でも本を借りた生徒の割合：40%以上

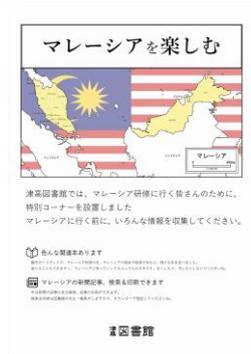
さて、校訓ともいえる「自主・自律」であるが、ある時、校内で「自主・自律を育てるにはどうすべきか」という問いが出されたことがある。難しい問いであるが、一案として、次のように考えている。それは、「知らないことを知る」「本などで学ぶ」「人と繋がって共有する」体験を繰り返すことで、自ら学んでいく基礎が養われるのではないかということである。それに合わせた本校図書館の主要な取組は以下のようなものである。

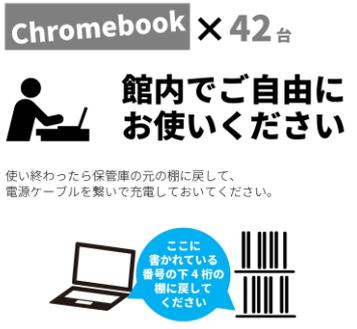
### 見つける(知らないことに気づく)お手伝い

<p>本を“魅せる”棚づくり</p>	<p>古い本を書庫に移し、本の表紙を意識的に見せ、思わず手にとりたくなるような本棚に変更。</p>	<p>本 本 本 へ、ようこそ</p> <p>ホンノモリ</p> <p>ここには、2万冊以上の本が並んでいます。あなたの知らない知識もたくさんあります。ぜひ本の間を歩み歩いてみてください。新しい世界との出会いがあるかもしれません。</p>	
--------------------	---	---	---

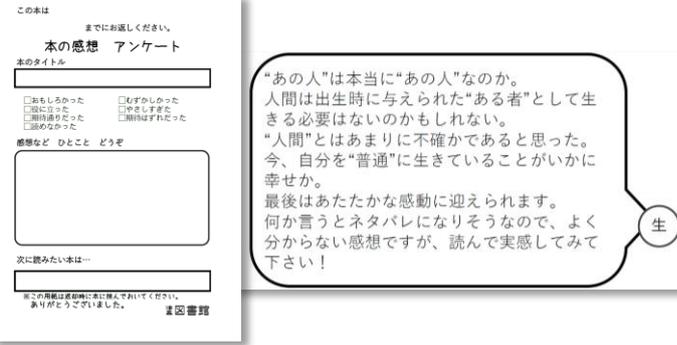
<p>あなたの知らない新聞の世界</p>	<p>ニュースパーク（日本新聞博物館）の協力で同日の新聞 120 紙以上を手にとれる形でギャラリーに展示。 <a href="#">開催案内ページへ</a></p>	
<p>図書館ミュージアム化計画</p>	<p>隣接県の美術館・博物館等に夏休み特別展のポスター・チラシの寄贈を依頼。50 館以上のポスター・チラシを展示。無料券・割引券も抽選で配布。 <a href="#">開催案内ページへ</a></p>	

## 学ぶお手伝い

<p>マレーシアを楽しむ</p>	<p>マレーシア海外研修参加者に向け特設コーナーを設置。 <a href="#">案内ページへ</a></p>	 
<p>君はまだ、本当の三重県を知らない</p>	<p>「地域を元気にする」アイデアをグループで考える放課後ゼミ向けに、県内 29 市町の「移住促進」「観光」パンフを収集。 <a href="#">案内ページへ</a></p>	 
<p>県立一志病院連携企画</p>	<p>医療系の道を希望する生徒に向け、県立一志病院のスタッフおススメ本コーナー設置、病院見学、院長先生の講演会などを実施。 <a href="#">報告ページへ</a></p>	

<p>生徒作品展</p>	<p>家庭の授業で1年生が作ったカバンと、書道の授業で2年生が字を書いたTシャツを展示。</p> <p><a href="#">案内ページへ</a></p>	
<p>クロームブック配備</p>	<p>クロームブック50台以上を図書館に配備。全生徒がクロームブックを使う授業を館内で実施。</p>	

繋がるお手伝い

<p>本の感想 「この本こ んなの！」</p>	<p>本の感想を活字化し、図書館だよりや館内掲示で紹介。</p> <p><a href="#">一部紹介ページへ</a></p>	
<p>青空図書館へようこそ！</p>	<p>好天の昼休みに中庭に図書館が出張。先生、生徒オススメの音楽を流し、本を通じて生徒の交流を促進。</p> <p><a href="#">開催報告ページへ</a></p>	
<p>匠の部屋</p>	<p>「モータースポーツ」「鉄道」「プラモ・模型」などのテーマで時限設置。昼休みに「しゃべり場」を設定し、同好の士の交流を促進。</p> <p><a href="#">案内ページへ</a></p>	

### (3) 津高図書館の職員体制と予算

本校図書館は図書部3名（教員2名、学校司書1名）で運営しているが、様々な企画は、校内外と連携を行うことで実現している。校内の主な連携先は進路指導部と「探究」推進部、書道部をはじめとしたクラブである。校外の連携先は、本校同窓会、三重県立図書館、三重県総合博物館、津市図書館、津市教育委員会などの教育関係機関から、三重県選挙管理委員会、皇學館大学、津市内書店、株式会社カーリル、伊勢角屋麦酒、NPO 法人ドットジェイピー三重支部、アノウラボなど、多岐にわたっている。

予算は、図書費が年間約70万円、企画の報償費が年間1万円＋旅費実費となっている。

## 2 COVID-19 禍の中での取組

2020年4月の休校期間中、教員の方々はオンライン授業への切り替えに苦勞しながらも、生徒のためにと奮闘していた。では、図書館は何ができるのだろうか？と考えて取り組んだのが以下の5つである。

### (1) 動画「本ススメ」の制作

「本ススメ」は、読書の大事さと楽しさを伝える動画である。2020年4月に三重県教育委員会事務局から三重県学校図書館協議会会長である本校校長に動画制作の依頼があり、同会事務局で検討した結果、同会司書部が制作を担うことになり、第1回は筆者が制作した。

<p>動画「本ススメ」の制作</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・Youtube「チャンネル 三重県」で配信</li><li>・なぜ今、本なのか</li><li>・主に青空文庫を紹介</li><li>・青空文庫の使い方をわかりやすく伝える</li></ul> <p><a href="#">Youtube</a>へ</p>	
--------------------	---	--

動画制作にあたっては、OpenBDの書影やフリー素材の写真等を活用した。「なぜ今、本なのか」では、三重県津市美杉町出身の起業家にして読書家、出口治明氏を紹介するため、氏が学長を務める立命館アジア太平洋大学に許諾をいただいた。また、松阪市の松浦武四郎記念館の主任学芸員山本命氏に依頼し、『がいなもん 松浦武四郎一代』作者の河治和香氏と小学館に連絡をとり、第1章の無料公開が実現した。音楽は三重県で活動をしているグループ、POTOFの音楽作品利用を許可いただいた。著作権者の方々にご快諾いただいたこと、改めてお礼を申し上げたい。

### (2) 津高生に本を届けようプロジェクト

自宅学習・外出自粛を続ける生徒の学びの支援、多様な情報に触れる機会づくりのため、自宅に図書館の本を届けようと考えた。その際の課題は2つ。1つは生徒が当館の蔵書を検索する方法がなかったこと。もう1つは郵送料の確保である。



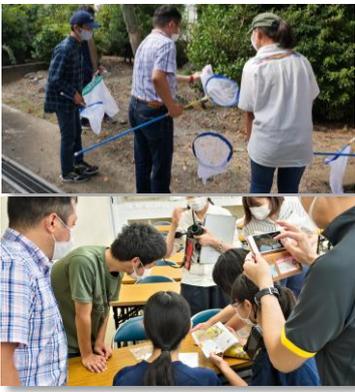
<p>津高生に本を届けようプロジェクト(2020)</p>	<p>株式会社カーリルの協力で検索・予約システムを構築。 同窓会に支援呼びかけ。53人に132冊送付。 161枚のレターパックプラスを寄贈いただく。 <a href="#">お礼のページへ</a></p>	
-------------------------------	--	--

### 2021年9月、プロジェクト再び

2021年8月27日、三重県が緊急事態宣言の対象に追加されたことで、本校は再びオンライン授業に切り替わった。それを受け、2021年版のプロジェクトを実施した。結果、2021年8月27日から9月27日の期間に72人の生徒に173冊の本を郵送した。即時対応できたのは、昨年度の同窓生の方々からの支援の賜物である。

### (3) 図書館探究講座

本校では、夏休みの期間に大学と連携して、様々なフィールドワークを実施している。2020年度の夏は、そのフィールドワークに中止が相次いだ。学びの機会の減少に対し、図書館で何かできないかと考え、「図書館探究講座」を初開催した。探究講座では、校庭での昆虫採集や、まち歩きなど、フィールドワークの機会を設けるように努めた。

<p>図書館探究講座①</p> <p>すぐそばにあるワンダーランド</p>	<p>三重県総合博物館の昆虫専門学芸員を講師に、講義・校庭で虫採取・図鑑で同定の3部構成で開催。 <a href="#">報告ページへ</a></p>		
<p>図書館探究講座③</p> <p>ウィキペディアタウン@津市安濃町</p>	<p>三重県図書館協会の助成金で実施。 まち歩き・資料調査・ウィキペディア執筆の3部構成。 アノウラボ、皇學館大学、津市教育委員会など多様な主体と連携。 2021年2月開催を6月、7月へと2度延期。 <a href="#">報告ページへ</a></p>		

#### (4) 車座トーク

人と気軽に会って情報交換ができない状況に対し、津高生と年齢・考え方が近い方を「話し手」に気軽に情報交換できる場を設定した。

<p>車座トーク Vol.2</p> <p>津高生の歩き方 僕たちは津高を出てこんな風に生きてきた</p>	<p>本校卒業生の奥田博貴さんと田中雄登さんと現役津高生が気軽な意見交換。</p> <p><a href="#">報告ページへ</a></p>		
<p>車座トーク Vol.3</p> <p>国際環境NGOで働くということ</p>	<p>本校卒業で国際環境NGO FoE (Friends of the Earth) Japan 所属の深草亜悠美さんとZoomで繋いで開催。</p> <p><a href="#">報告ページへ</a></p>		

#### (5) 図書館ライブ!

発表イベントの中止などで練習の成果を見せる機会を失った部に、図書館での発表機会を提供する目的で実施。音楽部、ダンス部、邦楽部が発表を行い、毎回20人以上が参加した。



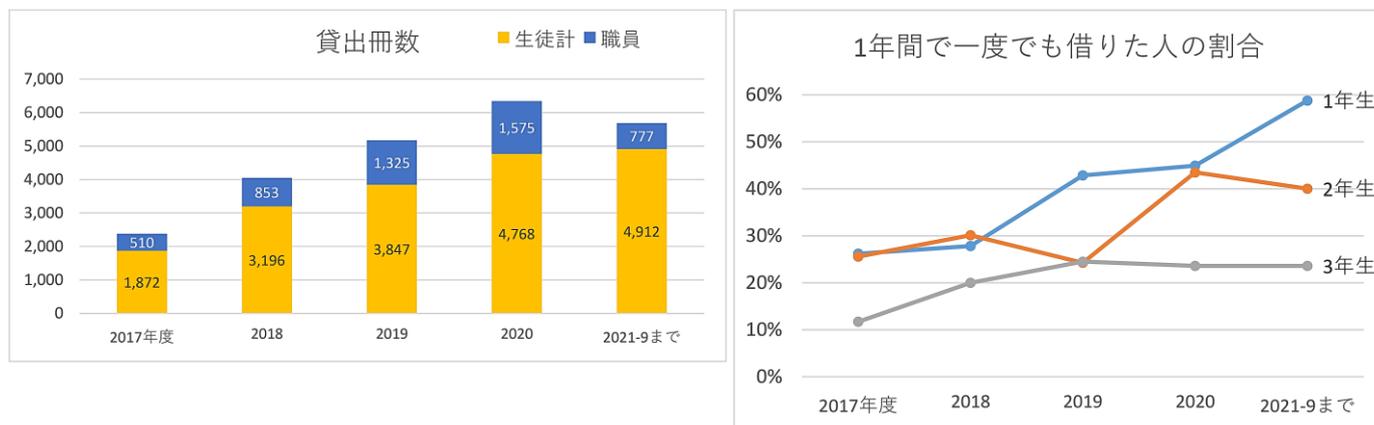
#### (6) どのように実現したのか

当然ではあるが、これら企画の予算が当初からあったわけではない。同窓生の方々のご好意の他、COVID-19で予算措置に変更が生じたSSHの予算の活用、三重県図書館協会の助成事業の活用など、様々な方法で予算を工面した。御支援・御協力いただいたところには本当に感謝している。

### 3 これまでの実績

2017年度から今年度9月までの貸出冊数と「1年間に1度でも本を借りた人の割合」の変化は以下のとおりである。COVID-19 禍の中でも、昨年度も数値を伸ばせたが、「一度でも借りた人の割合」は1年生でも50%未満となっており、より多くの生徒に図書館を活用してもらいたいと考えている。

なお、今年度9月時点で昨年度超えの数値があるのは、夏季休業前に借りてもらった本を、オンライン授業期間中に自動延長したことによる増加が相当数あることを申し添えておく。



### 4 終わりに

ここまで読んできていただいておりますが、本校図書館の取組は、財源や人員に恵まれての活動ではないし、ましてや綿密な長期計画に基づいた結果でもない。社会と学校の時勢に応じて、図書館なら何が出来る？と手探りで進んできたものである。向かう先を教えてくれたのは、本校の「育みたい生徒像」や校内の各部署、数々の連携先であった。

今回の優秀賞受賞に際し、その理由として「**公民問わず多彩な人脈を駆使して、一切の妥協なく、生徒に本物の機会を提供し続けている関係者一同を高く評価する**」（太字筆者）と記していただいた。これは、今まで本校図書館の取組に際し、御支援・御協力いただいた関係者の方々全員を優秀賞に選んでいただいたのだと捉えている。

COVID-19が収束・終息するのがいつになるのか、また終息したとして社会がそれ以前と同様になるのか、おそらく誰も見通せない状況である。そんな変化し続ける状況下でも、「**三重県立津高等学校の図書館**」として、生徒のみなさんに何が提供できるのか、何を提供すべきなのかを問い続けながら、協力いただいた方々とともにこれからも取り組んでいきたいと考えている。

文責 井戸本吉紀＝三重県立津高等学校 主査（学校司書）

2021年11月5日